

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福岡県～

## 目的

- ・英語教員の英語力・指導力を高めることで、講義形式の英語の授業から「話すこと」「書くこと」による対話を中心とした授業への改善を図る。
- ・英検準1級相当の英語力を有する中・高等学校英語教員の割合を増やすとともに、英語教員の英語力向上を図る。
- ・高等学校において、グローバル化に対応できる論理的思考力、判断力及び表現力に加え、実践的な英語力を身に付けたグローバル人材を育成する。

## 具体的な取組の内容

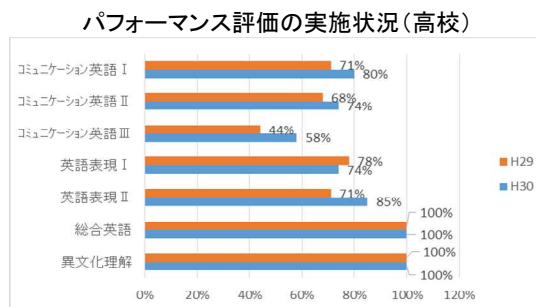
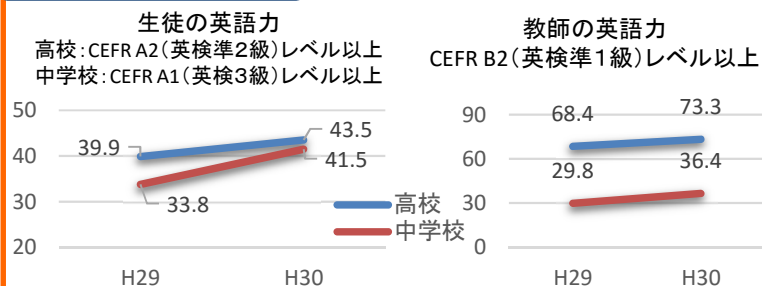
### □福岡県英語教員指導力向上研修

- ・モデル研修（4技能統合型授業の概要を確認する研修：1回）、メソッド研修（コミュニケーション能力育成のための指導方法について学ぶ研修：3回）、実践研修（研究授業及び研究協議：1回）、フィードバック研修（実践研修の反省及び授業改善に向けた指導方法に関する研修：1回）を、協力校4校及び在籍校において実施。平成30年度は155名が参加。
- ・本研修対象者全員によるTOEIC(IP)の受験。

## 成果

教員の英語力が向上し、指導体制が改善されたことに伴い、生徒の英語力が向上している。

※高校は県立のデータである。



### CAN-DOリスト

	中学	高校
学習到達目標設定	100%	100%
学習到達目標公表	95.1%	100%
学習到達目標達成状況把握	100%	100%

## 効果の波及・周知について

研修受講者が、在籍校において実践研修を実施し、研修終了後に研修成果を英語教員に還元することにより、各校に本取組の効果を波及させ、周知を行っている。

## 課題と課題解決のための手立て

**課題**：4技能のバランスのとれた英語力育成のため、英語の授業改善を引き続き推進する。

**手立て**：英語活動指導員を県立高校8校に配置し、英語イマージョン教育を実施し、他校の教員が参加する研究授業を行うなど、生徒の英語力向上のための事業を推進する。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福岡県立八幡南高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・音声をあまり活用しない文法演習では定着度が低く、即興的に使える文法力が身につかない。→音声を重視し口頭ドリルなどの導入。
- ・文法的なaccuracyを気にしてfluentなスピーキングやライティングが出来ない。→正確さではなく、量を重視した活動と評価の工夫。

## 具体の取組の内容

1. ペアによる口頭ドリルの導入  
従来は 態の変換、時制の変化、関係詞などの構文演習は、ハンドアウトによるドリル学習で終わっていたが、ペアで問題を出し合って、即興的に口頭で答える活動を加える。例文の暗唱も、ペアで口頭で確認し、教員の暗唱試験でチェックを受ける。
2. 10回聞いて、10回言う取り組み  
従来は、教科書本文の音声CDを、1, 2回導入して終わっていたが、30秒ほどの長さに編集し、何度も聞いて、音声を定着させた後、いろいろバリエーションを変えて繰り返し言う活動を通して、リスニング力の向上を図る。
3. 文法授業でのALTの活用  
コミュニケーション活動だけでなく、文法を教える授業にもALTに参加してもらい、実際に使うという視点からアドバイスをもらう。
4. スピーチ、ライティング活動  
一分間スピーチや、プレゼンテーションなどの活動を授業の中に取り入れる。評価については、accuracyを問う場面と、fluencyを問う場面を明確に分け、定期考査では従来通り accuracyを重視し、年に3回のスピーチテストでは、観点別評価30点のうち10点を割り当て、accuracyではなく、量や態度などの fluencyを重視する。ライティング課題に関しては、授業での活動では fluencyを重視し、その原稿を checkして作品を完成させる。

## 成果①

①生徒へのアンケートから  
「音声活動をしたほうが文法や表現が定着する」とした生徒はどの学年も9割以上。  
スピーチでは、当初、「文法的に正しい文を言わなければならないとプレッシャーを感じる」生徒は、どの学年も80%以上。「文法を気にしなれば話しやすくなった」とする生徒が全体で67%。

②外部テスト(GTEC)の結果から  
2年生について、GTEC1年12月と2年6月のスコアを比較すると、リーディングが10.9ポイント上昇、リスニング18.9ポイント上昇と大幅に力を伸ばしているが、ライティングのスコアがほぼ横ばいであった。読解の速度やリスニングに音声重視の授業の成果が見られるが、ライティングでは量を書けていなかったため、2学期以降、スピーキング活動や段落構成の演習に力を入れた。

## 成果②

<教員から見た児童生徒の変容>  
○生徒が英語を使うことに積極的にになり、ALTとの会話を楽しむようになった。  
○自分のことについて積極的に楽しみながら表現している生徒の姿が多く見られた。  
○ペアによる活動が活発になってきた。  
○基本的な英問英答においても、基本的なものであれば、理解できる生徒が増えている。

<研究授業における外部有識者より>  
○生徒が、活動になれてきて、活発に自己表現をするようになってきた。  
○授業中、生徒が英語を話す時間を十分に確保できている。

## 今後の課題・方向性

- ①口頭でのドリル活動や、暗唱活動、教科書本文によるリスニングドリルなど、音声を使って英文の定着のための活動に取り組んだが、それを応用段階に発展させ、クリエイティブなスピーキング、ライティング活動や初聴文のリスニング、英語によるQ&Aなどを増やしていきたい。
- ②スピーキング、ライティングでは、内容についての評価基準があいまいであった。生徒間で感想を言い合う程度で終わっているため、ルーブリックなどの作成を検討したい。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福岡県立香椎高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

・4技能統合型授業を目指した主体的・対話的で深い学びの授業の向上

## 具体の取組の内容

【バックワードデザインを基本とした授業デザイン（単元の計画を明確にし、4技能を取り入れる）】

- ・input/intake⇔outputを繰り返し、授業で学んだことをパフォーマンステストで発揮
- ・パフォーマンステストにおいて生徒が表現したい題材を設定  
例:「移住推進委員になり町を1分間でアピール(英語表現Ⅰ)」、「ファッションショーで実際に着た衣装についてプレゼン(FD科 コミュニケーション英語Ⅲ)」
- ・教科書の概要や要点を捉えた後、自分の将来の職業について、Dialogを作成し、発表する研究授業の実施
- ・効果的な音読指導の実施
- ・Information Gapを利用したSpeaking活動(I know you)の研究
- ・ディベートや準備演習における授業デザインを工夫



### 成果①

- 生徒に対する授業アンケート  
・「英語を話すのが好き」⇒増加  
58%【5月】⇒67%【12月】  
話す機会が増え、成長を実感
- ・「英語は将来、役に立つ」⇒増加  
90%【5月】⇒100%【12月】  
英語学習と社会とのつながりを実感
- 実用英語技能検定 受験者数の増加  
(第1回・第2回)  
【H29年度】      【H30年度】  
**230名      ⇒      630名**  
英語資格取得に対する  
意識・チャレンジ精神の向上

### 成果②

- 次期学習指導要領をふまえ、CAN-DO リストを基本とした年間指導計画を作成し、各単元にパフォーマンステストを実施。ルーブリック評価を導入することで生徒・教員ともにゴールが明確になった。
- 生徒が表現したくなるような題材を設定するために、教科横断的授業展開が必要不可欠となり、学校行事や他教科と連携することができた。
- 教員個人の指導力向上意識が高まるとともに、今後の英語教育の在り方や方向性が明確になり、意識の統一化が図られた。

### 今後の課題・方向性

- 4技能統合型の授業形態・CAN-DOを用いた評価計画・ルーブリックを用いたパフォーマンステスト・教科横断的授業展開は今後も継続して行い、精度をさらにあげていく。
- 流暢性から正確性への移行が必要である。評価についても流暢性を評価することも大事ではあるが、TEAPのライティング試験で求められている Discourse makers, synonyms and alternative expressions, a range of sentence structuresといった項目もルーブリック評価に入れ、パフォーマンステストのレベルを向上させる必要がある。
- 現段階では教員の指導力向上が生徒の英語力向上に直結しているとは言い難いが、英語に対する意欲の面は向上している。この指導力向上研修をきっかけに今後も研修を重ねていく決意である。

### 現状の課題と問題解決のための手立て

- ・入学時段階での基礎的知識・技能の不足と英語への苦手意識
- ・一年次一学期での学び直しと、実用技能英語検定の積極的な活用

### 具体的な取り組みの内容

- ・Power Pointで作成した教材での授業展開と教材の共有化
- ・使用教材(教科書・副教材)の全面的な見直し

#### 成果①

実用英語技能検定試験  
の合格者増加

- 2018年度第1回合格者  
準1級:1名 2級:33名
- 2017年度第1回合格者  
準1級:1名 2級:4名

#### 成果②

英語への意欲的な取組  
実用英語技能検定試験の  
受験者数増加

- 2018年度第1回受験者数  
331名
- 2017年度第1回受験者数  
236名

#### 今後の課題・方向性

- speakingの改善が課題
- 科目「英語表現Ⅰ・Ⅱ」  
の授業内容の充実
- ICTを活用した授業展  
開の一層の工夫
- 教員研修を通じた授業  
改善

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福岡県立嘉穂高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・外部試験などで正答率の低いリスニング分野で改善できるよう、教員が用いる英語の発話の速度を上げ、生徒が聞き取れる語彙を増やす。
- ・スピーキング能力向上のために、small talk などコミュニケーションやプレゼンテーションの活動を積極的に設ける。

## 具体の取組の内容

- ・教員による発話は基本的に英語で行い、生徒が耳にする英語の分量を増やし、毎時間積み重ねることで、リスニング能力や語彙力の向上を図った。
- ・small talk など、生徒が英語で発話する場面を設定し、生徒のスピーキング能力の向上に努めた。単に用意した原稿を音読させるのではなく、アイコンタクトやデリバリーなどを意識しながらプレゼンテーションに取り組ませた。
- ・計6回の公開授業では、どの授業においても生徒が積極的に英語で発話する姿が見られた。英語でやりとりをする際には基本的には立って話をさせ、相手の話す英語に耳を傾けさせ、それに対する返答を英語で伝えようとする積極性を育むことができるように授業を展開した。
- ・指導力向上研修において、外部有識者に6回参加していただいた。英語や指導法に関する講義を受け、ワークショップ形式で実践を行いながら、指導力の向上に努めた。

### 成果①

- ・生徒に行ったアンケート調査の結果、今年度の授業を通して77%の生徒が話す能力の向上を実感したと答えた。
- ・第1回、第2回実用英語技能検定の結果を今年度と昨年度で比較した。合格者数は全体で46%増加し、特に2級合格者は146%増加した。
- ・外部模擬試験のリスニング分野において、得点率が16.3%増加した。

### 成果②

- ・本事業を通して、英語によるコミュニケーション活動を活性化することができた。また、検定試験や模擬試験を積極的に受験しようとする姿が見られるようになった。
- ・外部有識者の講義を受け、自身の英語力向上に努める教員の姿が見られた。また、講義で学んだ指導法について研究し、実践するようになった。

### 今後の課題・方向性

- ・予め用意された原稿を見ながら、または暗記して発表できる生徒は多いが、スピーキングの応用力は十分に身に付いていない。英語面接の練習を増やし、その場に応じた応答ができる力を育てていきたい。
- ・授業内で英語を聞き続けることで、リスニング能力が向上した。しかし、生徒の実感ほどの向上ではなかった。今後は語彙指導、リーディング指導に力を入れ、確実に聞き取れる生徒の語彙力を向上させたい。